

UDL（学びのユニバーサルデザイン）の理論と実践

hue★ 川俣 智路(北海道教育大学)
kawamata.tomomichi@s.hokkyodai.ac.jp

本スライドはこちらから閲覧できます（24年7月まで）

https://docs.google.com/presentation/d/1WP2h_eYU15avqMuj95U5xo0ayWweptL42JZuCE5Do/edit?usp=sharing



本日の内容の要約

学びのユニバーサルデザイン(Universal Design for Learning,UDL)による授業観のアップデートの必要性和その具体的な方法を提示します

これからの学習支援では自分の学びを自分で調整できる児童生徒を育てることが、学習支援の観点からも、個別最適な学びの実現の観点からも重要です

全ての児童生徒の学習をどうサポートするか

- 特別な支援を要する児童生徒の増加
 - ◇ 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」から学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒は8.8%
- ◇ 個別支援や合理的配慮の必要性はさらに高まっていくことが予想される

個別支援の必要性が高まる中で予想される課題

- 児童生徒の学習に関わる課題に注目が集まる一方で、学習者の多様性や社会の変化に対応した授業そのもののアップデートをどう実施するかが課題ではないか
 - ◇ 個別の支援や合理的配慮が充実する一方で、学習者がそもそも多様であるという前提に立つ授業づくりはどれぐらい勧められてきただろうか

学習者の多様性と個別最適な学び

- 個別最適な学びをどう実現するか？

◇ 子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」

◇ 教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」

学習指導要領が求めるもの

- 学習指導要領の改訂
 - ◇ 社会の急激な変化(産業構造)
 - ◇ 社会参加、仕事の在り方は変わっていくだろう
- これから求められる能力
 - ◇ 「知っていることを答えられる」から「様々な知識を活用して目の前の問題を異なる他者と解決していく」ことが重要になっていく

UDLの資料はこちらから

<https://udl-lab2023.my.canva.site/home>



次の学習指導要領のキーは 自己調整

VCUA 時代を生き抜くために必要なこと

VCUAとは

Volatility	(変動性)	変化のスピードが想像以上に早く、未来の予測が難しいこと
Uncertainty	(不確実性)	「何が起きるか？」の予測が難しいこと
Complexity	(複雑性)	さまざまなできごとやモノが複雑に絡み合っていること
Ambiguity	(曖昧性)	できごとの因果関係や解決策がはっきりせず、説明できないこと

変化が激しく予測しづらいVCUA時代を生き抜くために、必要なこと

企業や組織	迅速な意思決定やパースの定義、アジャイルな組織開発
個人	客観的な認識力や思考力の習得、内発的欲求や当事者意識の向上

<https://www.asahi.com/sdgs/article/14663680>

次の学習指導要領のキーは 自己調整

●次の改訂は2030年頃に全面实施か

●「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」にて議論が始まっている



第3回会議議事録から(奈須先生)

義務教育ワーキンググループに課された課題は、Society 5.0時代に向けた社会変化の加速度的な進展や、それに伴う今後の新たな教育の可能性を見据え、学校を中心とする学びの在り方の基本的な考え方を整理するとともに、1人1台端末等の活用を含めた、多様で柔軟な学びの具体的な姿を明確化するというものでした。

(中略)

これまでの段階では、多様性と包摂性が実現された環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、子供たちが自らの学びを自己調整しながら進め、自立した学習者として育っていくという視点を大切に、学校外の教育機関あるいは地域社会との関係性の構築、また、それらを適切にコーディネートする教育委員会等の役割も含めて、誰一人取り残さない、全ての子供が幸せになる教育環境の創造の原理と実際を求めていく上で、今後具体的に検討を要する論点の洗い出しに努めてまいりました

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/087/gijiroku/mext_00002.html)

UDL実践とは何か？

●学習内容、学び方について、児童も教員も振り返りながら、児童生徒が自分の学びをリソースを使って自身で調整している

●学習方法、内容、評価方法が複数準備されており、全児童・生徒の参加を促す

◇インプット

◇アウトプット

◇エンゲージメント(やる気と学び続ける努力)

学びのユニバーサルデザイン

●Universal Design for Learning

◇主体的な学習者を育てる

◇CAST

UDLとは？

●学習の目的を阻む「カリキュラムの障害」を探しだし、

●ガイドラインに基づいた選択肢(オプション)を用意し、

●学習者はなぜ学ぶかに基づいて

●主体的に調整し学べるようになる

カリキュラムの障害

人に障害があるのではなく、カリキュラムに障害がある



小学校での取り組み例

深川市立深川中学校 国嶋先生の提供

参考

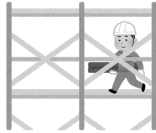
<https://youtu.be/fQKQkCbq-g?si=5gWc0NQvS0abqCOI>



- 適切な支援は生徒によって異なっている
- 支援が事前に用意され、調節可能であることが重要！
- ◇支援はできない生徒に与えるものではない
- 生徒自身が調節できることにより、適切なチャレンジが可能になる

2021/9/9

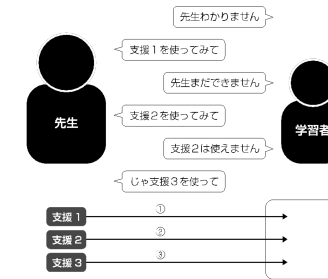
北海道教育大学



● (A)手が止まった太郎くんは先生が支援に入ります。「式はどうなるの?わからない?それじゃあ、図で書いてみて、そう。お皿にミカンが7つ、でしょ。それを7皿書いてみて、ほら式はどうなるの?そう 7×7 。答えは?わからない、ししちち?ああ、じゃあそのまま数えなくて、もう九九表を見て。そう、49。早く7の段を覚えてね。」

(B)困っている太郎くんは先生は「色々やり方があるから、試してみよう」と伝えます。太郎くんが周りの様子を見ると、図を書いている子がいたので真似をしてみました。すると、7個のミカンが7皿なので、式が 7×7 で求められるのではないかと、ということがわかりました。しかし、太郎くんは7の段がわかりません。そこで前方に目を見ると、掲示板のところに九九表が貼ってあるのが目に入り、それを見ることによって 7×7 は49となり、答えが49個であることがわかりました。先生は太郎くんに対して、「他の子のやり方から学べていて良いですね、教科書にも同じような説明があるんですよ」と返しませんでした。

川俣智路
(2020). 学習支援から学習者の発達支援へ 指導と評価
vol.66-2
No.782 9-11
より引用
北海道教育大



先生の指示で、学べないたびにその都度支援が提供される。学習は受け身となり失敗経験を繰り返し、援助希求が難しい場合には2021/9/19

川俣智路(2020). 学習支援から学習者の発達支援へ 指導と評価 vol.66-2 No.782 9-11 より引用

図2 従来の指導場面のイメージ

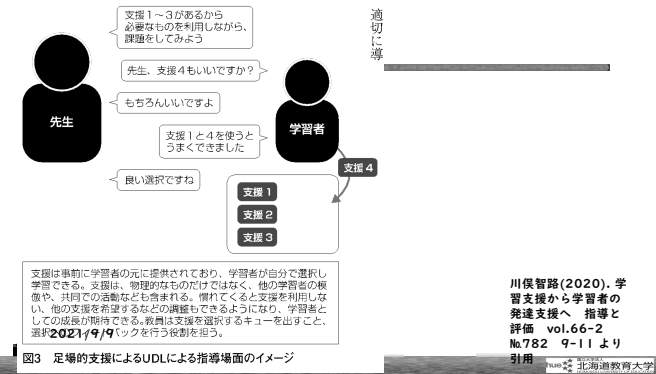


図3 足場的支援によるUDLによる指導場面のイメージ

川俣智路(2020). 学習支援から学習者の発達支援へ 指導と評価 vol.66-2 No.782 9-11 より引用

先生、支援4もいいですか？

もちろんいいですよ

支援1と4を使うとうまくできました

いい選択ですね

支援1
支援2
支援3
支援4

支援は事前に学習者の元に提供されており、学習者が自分で選択し学習できる。支援は、物理的なものだけではなく、他の学習者の模倣や、共同での活動なども含まれる。慣れにくさと支援を利用しない、他の支援を希望するなどの調整もできるように、学習者としての成長が期待できる。教員は支援を選択するキューを出すことに、選択2021/9/9バックを行う役割を担う。

図3 足場の支援によるUDLによる指導場面のイメージ

川俣智路(2020). 学習支援から学習者の発達支援へ 指導と評価 vol.66-2 No.782 9-11より引用

北海道教育大学

- a.の場合には、できないことを前提に、解き方や考え方が全て指示されており（1つだけ）、支援はつまずきに応じてあとで提供されている
- b.の場合は、足場があればできることを前提として、解き方やアプローチが複数あり、事前に用意されている支援をどう使うかも調整可能である

2021/9/9

I 提示に関する多様な方法の提供

- 認知のためのオプション
- 言語と記号のためのオプション
- 理解のためのオプション

II 行動と表出に関する多様な方法の提供

- 身体動作のためのオプション
- 表出スキルや流暢さに関するオプション
- 実行機能のためのオプション

III 取り組みに関する多様な方法の提供

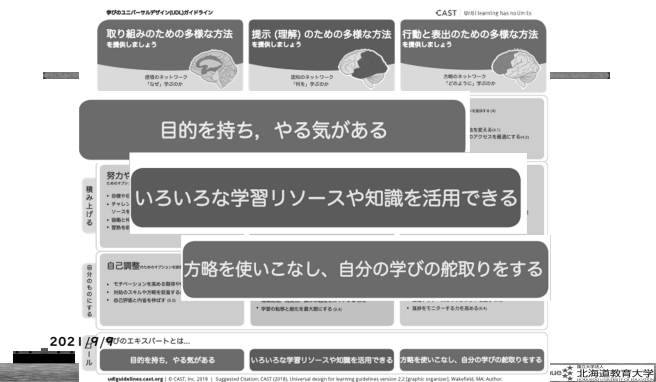
- 興味の引き方のオプション
- 努力や頑張りを継続させるためのオプション
- 自己調整のためのオプション

北海道教育大学

- Ⅰ 提示に関する多様な方法の提供
 - 認知のためのオプション
 - 言語と記号のためのオプション
 - 理解のためのオプション
 - Ⅱ 行動と表出に関する多様な方法の提供
 - 身体動作のためのオプション
 - 表出スキルや流暢さに関するオプション
 - 実行機能のためのオプション
 - Ⅲ 取り組みに関する多様な方法の提供
 - 興味の引き方のオプション
 - 努力や頑張りを継続させるためのオプション
 - 自己調整のためのオプション

2021/9/9


 国立大学法人
北海道教育大学
 HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION



知覚する ためのオプションを提供する (1)

- 情報の表し方をカスタマイズする方法を提供する (1.1)
- 聴覚情報を、代替の方法でも提供する (1.2)
- 視覚情報を、代替の方法でも提供する (1.3)

言語, 数式, 記号のためのオプションを提供する (2)

- 語彙や記号をわかりやすく説明する (2.1)
- 構文や構造をわかりやすく説明する (2.2)
- 文字や数式や記号の読み下し方をサポートする (2.3)
- 別の言語でも理解を促す (2.4)
- 様々なメディアを使って図解する (2.5)

理解のためのオプションを提供する (3)

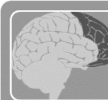
- 背景となる知識を活性化または提供する (3.1)
- パターン、重要事項、全体像、関係を目立たせる (3.2)
- 情報処理、視覚化、操作の過程をガイドする (3.3)
- 学習の転移と般化を最大限にする (3.4)

- 説明を読むこともできる
- 必要な生徒はもう一度説明を聞ける
- グラフィックオーガナイザーなどの、図解ツールがいつでも使えるようになっている
- いつでも検索が可能である

事前に用意して児童が選
択する

- 子どもたちは先生の説明を聞いた後、紙、タブレット、相談しながら情報を確認します。
- 外には問題とその答え、補充問題があり、自由に情報を得ることが可能です。
- 何が必要か、得た情報を使うかは子どもたちが考えます
- 先生は、個別に相談に乗ったり、説明を繰り返すなどのサポートをしています

- 子どもたちは先生の説明を聞いた後、紙、タブレット、相談しながら情報を確認します。
- 外には問題とその答え、補充問題があり、自由に情報を得ることが可能です。
- 何が必要か、得た情報をどう使うかは子どもたちが考えます
- 先生は、個別に相談に乗ったり、説明を繰り返すなどのサポートをしています。



Ⅱ 行動と表出に関する多様な方法の提供

- 身体動作のためのオプション
- 表出スキルや流暢さに関するオプション
- 実行機能のためのオプション

- 表現、感情表出に関わる
- どのようにしてアウトプットするか
- どのようにして、表出をコントロールするか（実行機能）

身体動作 おたのしみオプションを提供する (4)

- 応答様式や学習を進める方法を変える (4.1)
- 教具や支援テクノロジーへのアクセスを最適にする (4.2)

表出やコミュニケーション おたのしみオプションを提供する (5)

- コミュニケーションに多様な媒体を使う (5.1)
- 創作や作文に多様なツールを使う (5.2)
- 練習や実践での支援のレベルを段階的に調節して流暢性を伸ばす (5.3)

実行機能 おたのしみオプションを提供する (6)

- 適切な目標を設定できるようにガイドする (6.1)
- プランニングや方向の向上を支援する (6.2)
- 情報やリソースのマネジメントを促す (6.3)
- 選択をモニターする力を高める (6.4)

例えば

- キーボードで打ち込むのも可
- ペア・グループで話すことも可
- 手をつける場所のヒントがある

多様なアウトプット

- 子どもたちは先生の説明を聞いた後、タブレットに共有したり紙に書いて、考えを表出していきます。算数の時間ならば、立式、作図、等方法によって複数考える場合もあります。
- 話し合うスペースが前にあります。この時間は個別作業が多いですが、グループで話したり、友達とやり取り、自由に選べて、途中で帰ることもできます。
- 先生は、個別に相談に乗ったり、書くのが苦手な子どもの話を聞いてまとめるのを手伝ったりしています



Ⅲ 取り組みに関する多様な方法の提供

- 興味の引き方のオプション
- 努力や頑張りを継続させるためのオプション
- 自己調整のためのオプション

- モチベーションや自己のコントロールに関わっている
- やる気を高めて、継続的に取り組めるように調整する方法を提供

興味を持つ おたのしみオプションを提供する (7)

- 様々な選択や自主性を最適にする (7.1)
- 自分との関連性・価値・興味味を最適にする (7.2)
- 不安要素や気を散らすものを最小限にする (7.3)

努力やがんばりを続ける おたのしみオプションを提供する (8)

- 目標や目的を自立させる (8.1)
- チャレンジのレベルが最適となるよう(課題)のレベルやリソースを変える (8.2)
- 励励と仲間集団を育む (8.3)
- 頑張りを助けるフィードバックを増大させる (8.4)

自己調整 おたのしみオプションを提供する (9)

- モチベーションを高める期待や信念を持てるよう促す (9.1)
- 対話のスキルや方略を促進する (9.2)
- 自己評価と内省を伸ばす (9.3)

例えば

- 途中で先生がチェックを受けられる
- 3つの教材から自分が得意なものを選ぶことができる

用意したツールの使い方

- 以下のものを用意するときには、必ず使い方を確認しなくてはならない。また、ツール自体にバリアがないかを確認しないとならない
 - ◇ 学習の見通し、進捗表
 - ◇ 振り返り、ルーブリック
 - ◇ ヒントカード、解答、丸付け
 - ◇ ミニ先生、できた人はできない人に教える
 - ◇ そのほかたくさん

UDLの実践例～中学校

●中学校数学での取り組み

◇カリキュラムの障害

- 学習に意欲的になれない
- 参加の多様性が保障されていない

◇環境のデザイン

- 座席自由、机椅子の配置も自由
- 取り組みかたも自由

UDLの実践～中学校

◇オプションを増やす

- 課題の選択、教材の選択
- テクノロジーの使用
- 個人、友人、教師と学習
- 自分に合った解決法を探すように
- 記号の置き換え(x,y→○、□)
- 生徒の要望でイヤーマフを用意

高校における実践例

●東京共育学園高等部

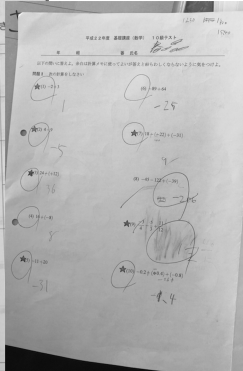
- 私立通信制高校サポート校
- 様々な支援ニーズを抱えた生徒が、ほぼ毎日通学している

- 高校から依頼を受けて、UDLの研修と、協働での授業改善プロジェクトを実施していくことに



2018.10.12 - 10.26

北海道教育大学



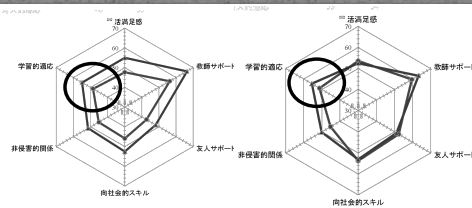
北海道教育大学

生徒の様子の変化

- 自分で調べて、プリントを進められるようになってくる
- 「もう私テスト受りたい」と言って確認テストを先に受ける生徒
- 自分たちで問題を作成し、それが定期試験に採用された

北海道教育大学

ASSESSの1年間の変化



北海道教育大学

知的障害特別支援学校でのUDL実践

- 柳澤真美『知的障害特別支援学校でのUDL実践 各教科等を合わせた指導「作業学習」で育む力』授業UD研究 Vol.11 2021年
- 作業学習の課題点
 - ◇ 教師主導の作業活動
 - ◇ 作業活動そのものが目的になりがち
- 作業学習の目標を「自分の作業活動を、自分のやりやすい方法で、自分で調整しながら、進める（学習をする）ことができる」とした

北海道教育大学

知的障害特別支援学校でのUDL実践

- 相談しやすい雰囲気作り(7.3)
- 生徒自身が目標を立て、生徒とやりとりする(8.1)
- 道具や手順の試行錯誤を推奨(9.2)
 - ◇ その際に振り返りも行う
- 生徒は質問をしたり、手順を工夫したり、自分で手順書を作って取り組んだり、学び方を工夫しながら作業学習に取り組めるようになった

北海道教育大学

学びのエキスパートを育てる

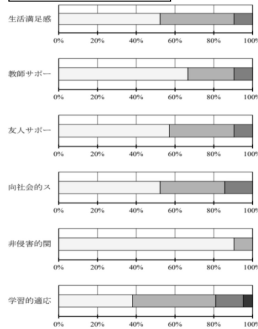
- 学習者（子ども）が、学ぶ方法の選択肢の中から、目的となぜに基づいて、自分に最適の方法を自ら選んで、主体的に学べるようになる

学びのエキスパート

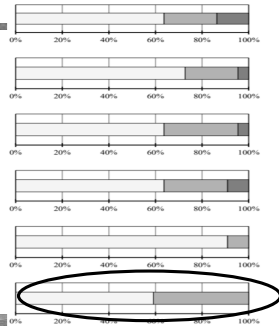
2021/9/9

北海道教育大学

アセスメント・UDL導入前 作成日: 2020/4/20



研修8か月・UDL導入3か月 作成日: 2020/12/02



北海道教育大学